

# Anchor's PERSON



株式会社 K'S STYLE  
代表取締役

**金山 載勝**

建築業界から飲食業界へ。そしてまた、建築業界へと戻って独立した金山社長。  
その中で培ってきたものは経験と実績、そして人脈だ。  
「たとえその場になくても、私の名前を出してくれたことで、  
新しい仕事につながったことがあるんです」と社長。  
だから社長は、タテよりもヨコのつながりを重視し、何より人を大事にする。  
この世を去った後も、きちっと評価される人間でありたい——それが目標だ。

**「タテのつながりより、ヨコのつながり。  
人に支えられて歩んできました」**



代表取締役

金山 載勝

special × interview

元 WBA 世界ミドル級チャンピオン

竹原 慎二

# 周りの人に支えられながら 一步一步着実に歩を進める建築会社

店舗やマンション、ビルなどの新築工事や改修工事などを手掛ける『K'S STYLE』。金山社長はこれまで、東京や横浜をはじめ、全国各地で様々な仕事に携わり経験を積み重ねてきた。一時は飲食の世界にも身を置いたが、それは決して回り道ではなく、良い経験として今に生きている——。本日は元 WBA 世界ミドル級チャンピオンの竹原慎二氏が社長のもとを訪れ、インタビューを行った。

——まずはお仕事の話に入る前に、金山社長の歩みから伺います。ご出身はどちらですか。

ここ京都府です。小学生のころから野球漬けの毎日で、中学卒業後は富山県にある高校に入学し、3年間寮生活を送りました。

——高校でも野球を続けられて？

はい。3年間ピッチャーをしていました。そのまま大学で野球を続けるという道もあったのですが、一度京都に帰ろうと思いついて。大阪にある建築の専門学校に通うことにしました。

——元々、建築関係のお仕事に興味をお持ちだったのでしょうか。

ええ、父が建築系の商売を営んでいて、当時の番頭さんが通っていた専門学校を

紹介してくれたんですよ。そちらで2年間勉強をしました。ところが卒業するころは就職氷河期で、1クラス50人のうち、建築関係の会社に就職できたのは20人程度。その中で、何とか父の会社の取引先の一つ、京都の工務店に就職させていただくことができました。

——そちらでは何年ぐらいお勤めをされたのでしょうか。

4年ぐらいです。そちらは、京都府にある地場の工務店の中では5本の指に入るぐらいの規模で、私は管理者として現場に出ていました。自分一人で年間売上2億6千万円を達成したこともありましたが、仕事がとてもハードでした。当時20代半ばと、まだ若いこともあって、他の仕事も経験しておきたいという思いから、会社を辞め、一度建築業界から離れたんです。

——では、どんな業界に移られたのでしょうか。

飲食業界です。私は元々、人と話をするのが好きなので、いつか自分の店を持ちたいと思うようになったんです。それで京都で3店舗運営されている飲食店で

修業させていただくことになり、人一倍努力してきました。普通なら15時から仕込みをしてダシを炊くのですが、その時間を先輩の仕事を見る時間に使いたくて、一人で14時に出勤して1時間早く仕事を終え、勉強させていただきました。——お店を持ちたいという夢があるから頑張れたのでしょうか。

そうなんです。けれども冷静に考えてみたら、店を出すのに借入れをしないとけない。けれども、私は事情があって借金できない状況だったんです。そして給料も安く、生活をしていくのも厳しい状態でしたから、28歳で飲食の道を断念しました。ですが、様々な方々との出会いがありましたから、飲食業界に入ったことを決して無駄だったとは思っていません。

——ご苦労されたわけだ。人との出会いは一生モノの宝ですからね。そして再び建築業界に戻られた？

ええ。ちょうど辞めようと思っていたタイミングで、横浜にいたおじから、大規模な改修工事があるから手伝ってくれないかと連絡があり、一人で工務店をされていた方の下に付き、1年半ぐらい東京や横浜で仕事をしました。その後、最初に働いていた会社の上司が京都で独立していたのでそちらで1年ほどお世話になり、独立して今に至ります。

——最初に働いていた会社の上司さんですか。辞めてもなお人とのつながりを大事にされている社長のお人柄が窺えますね。独立にあたっては、きっかけがあったのでしょうか。

現場でお世話になっていた社長さんた



ちが、「応援するから独立すれば良い」とおっしゃって下さったんですよ。それがきっかけで、30歳を過ぎたころに個人事業としてスタートしました。

——立ち上げ当初はいかがでしたか。

はじめは生活できないレベルでした。当時は父母との3人暮らしでしたが、稼がないから迷惑をかけてしまっ。それが情けなかったこともあり、ちょうどご縁をいただいて東京へ行っ。ただ仕事をしてもお金が回収できずに借金をしたこともありましたが、その中で人とのつながりができて応援してもらったり——周りの方々のお陰で、何とかここまで来られました。そうして、徐々に安定していき、より大きな仕事を得るために4年前に法人化したんですよ。

——現在はどのようなお仕事をメインで手掛けておられて？

焼肉店やBALといった飲食店や美容室などの店舗やマンション、戸建ての新

築工事や改修工事などを手掛けております。新築工事には、耐震性や気密・断熱・調湿性の高さ、害虫被害の少なさといった多くのメリットがある鉄骨新築工事をメインでご提案しています。また、改修工事においては、クロス・床の張替えや水回りなどの小規模な工事も承っております。当社は、見積もりから施工まで一貫して対応可能ですから、お気軽に、また安心してご相談いただきたいですね。——最後にこれから先の目標をお聞かせ下さい。

徐々に仕事の幅も広がり、人とのつながりで新規のお客様にも恵まれ、ありがたく感じております。ただ、ここに来てコロナの影響も大きく、キャンセルもありました。今後も状況が厳しくなるかもしれませんが、エンドユーザーが、安心して過ごせる快適な空間を提供するために進んでいだけだと思います。

(2020年7月取材)

## 「人を残すは一流」

▼これまで建築業界と飲食業界に身を置き、関西や関東をはじめ、各地で仕事をしながら人間関係を築いてきた金山社長。「出会った人たちが、自分がいないところで名前を出してくれたことが、新しい仕事につながったんです。人によっては亡くなってからも悪く言われることがあるでしょう。私は生きている間も、亡くなってからも、きちっと評価される人間になりたい」と力強く語る。

▼そんな社長の座右の銘は、野村克也氏の言葉だ。野村克也氏は野球選手として活躍し、その後もコーチや監督、解説者として野球に関わり続けた人物で、2020年2月に惜しまれながらもこの世を去った。野村氏は数々の名言を遺しているが、社長が最も大切にしているのは、同氏の「金を残すは三流、名を残すは二流、人を残すは一流」という言葉。お金や名前を残すよりも、大事なものは人を育てること。技術を継承してこそ「一流」。今後は若手の育成、技術継承にも尽力していく考えだ。

株式会社 K'S STYLE

京都府京都市右京区山ノ内瀬戸畑町 19-1